

I P A N G U

IWATE Public Relations



失、動く。

1

A C T I V E G O V E R N O R

CONTENTS

対談 イズムの時代	1
特集 これが岩手の起業力だ	7
ロケーションハンティング	12
岩手生活百科	14
ミスターいわての「黙って聞け」	16
IPANGU史	18
IPANGUデザインフォーラム	20
オリジナルフィールドいわて	22
いわてプロモーションカタログ	24
旬の情報	25

IPANGUの由来

13世紀後半、イタリアの冒険家マルコ・ポーロがその名を残した黄金の国「ジパング」。

それは日の出る東方の国「日本」であり、11世紀に奥州藤原氏が黄金文化を築いた、ここ「岩手」であるといわれている。

いま時代は「ZIPANGU」から「IPANGU」へ、IWATEの「I」のパワーを全国に広めようと命名した。

増田寛也プロフィール

岩手県知事 ますだひろや、45歳。平成7年4月の地方統一選挙でデビューした、全国最年少の知事である。

学生時代バスケットボールで鍛えた屈強な肉体と持ち前の行動力で、本州一広い岩手県を東奔西走の日々。若さとエネルギーあふれる毎日を送る。性格は、その大胆な行政手腕からは思いもよらぬほど几帳面で、時には愛妻・満喜夫人も驚くほど繊細な一面を覗かせるという。趣味はテニスにスキー、ゴルフといずれもアウトドア指向。雄大な自然に恵まれた岩手を舞台に、その才能を遺憾なく発揮している。

牛が動く、岩手が動く

多才な芸術家として知られる詩人高村光太郎は、その作品の中で、7年間過ごした岩手に住む人々を親愛の情を込めて「牛」に例えた。岩手では、牛は昔から農作業や荷の運搬に用いられるなど、生活に密着した存在。なにごとにも慎重で大様に構える岩手人の気質や、ゆったりとした時間が流れる岩手の風土が、この「牛」には込められているのである。

岩手の人 沈深牛の如し。

兩角の間に天球をいけて立つ かの古代エジプトの石牛に似たり。地を往きて走らず、企てて草卒ならず、つひにその成すべきを成す。

出典は、築摩書房「高村光太郎全集」詩「岩手の人」より

その「牛」の如き岩手が動き始めた。大きく、ゆっくりと、しかも力強く。まわりには小さな風の渦を巻き起こし、次第にその範囲を広げながら。いよいよ岩手の時代が始まる。IPANGUは、そのプロバガンダである。



Hiroya Masuda

増田寛也のビッグトーク

高度なネットワークにより、情報は世界を縦横無尽に行き交い、社会や経済そして国家、市民までもがポータル化する時代。世界的な潮流が大きく変化する中で、これまでの日本を支えていた経済構造や社会構造についても変革が迫られている。

行政も企業も、これからの新しい社会の創造やシステムの構築に向けて何をなすべきなのか、どのようにチャレンジしていくのが

協調と調和、そして連携を基本としながらも、

ますます激化する競争社会で必要とされているものは……。

創業百十年の歴史を誇り、近代日本経済発展の一翼を担ってきた

新日本製鐵株式会社代表取締役社長で、社団法人経済団体連合会の

副会長を務める今井敬氏と、就任三年目を迎えた全国最年少の

岩手県知事増田寛也が、真の地方の時代について語り合った。

イブズムの時代

新日本製鐵社長

今井敬



いまは隔世の感あり

増田 今井さんは富士製鐵時代に若手にいらしたと伺いましたが、いつ頃のことでしょうか。

今井 いまから四十年ほど前、昭和二十九年から三十三年までの四年間です。当時は蒸気機関車の時代で、東京から夜行列車に乗り花巻へ。社員いきつけの店で一杯飲んで、さらに二時間かけて製鉄所のあった釜石に向かいました。窓を開けると機関車の煙で、顔は真っ黒。現在と比べると隔世の感がありますね。変わらないのは人じゃないですか。純朴で、初めて東京からきたときも親切にしてくださいました。

増田 昭和二十九年といいますが、私がまだ二歳の頃ですから、具体的にはイメージできませんが、おそらく活気に溢れていたのだしょうね。今日は、その釜石でいま盛んに繁殖されている高級カレイのマツカワをご利用いただきました。

今井 チョウザメは知っていましたが、マツカワは初めてです。なかなか歯応えがあつておいしいですね。

増田 秋には釜石市の隣、大槌町で、第十七回全国豊かな海づくり大会も開催されます。県としても積極的に売り出していきたいと考えています。

今井 この味でしたら、都内の料亭でも十分通用すると思います。

息づく製鉄所の気質

増田 ところで、鉄の街釜石の象徴でもあった高炉が止まり、早八年が過ぎました。このマツカワの繁殖を一例として、さまざまに試みが行われてきましたが、いまでも釜石製鉄所全盛の頃の気質が息づいていて、企業が進出しやすい環境があると思つてい



ます。

今井 私が転出して一、三年が一番のピークで、確か従業員も七、〇〇〇人ほどおり、釜石の駅に立つただけで活気を感じました。その後の経済状況の変化の中で、規模の縮小を余儀なくされたわけですが、現在ではかつての製鉄所構内での総生産高も、関連企業を含めて一、〇〇〇億円に達しています。高炉停止当時は約六〇〇億円。二、

七〇〇人ほどだった従業員数も四、一〇〇人に達しているというのですから、五割以上も増えたことになりませう。当初は大変おしかりを受けましたけれども、いまだでは進出を希望する企業の問い合わせも多く、当時の選択は間違っていないかつたと実感しているところですよ。

増田 まだまだ雇用の場が十分とはいえない沿岸地域の中で、企業進出の基盤が根付いているのは、大変ありがたいことです。

今井 今後ますます発展すると思えますね。私どもの製鉄所でも、新しい事業として東北電力の発電を受注しましたし、アクセス道路がさらに整備されれば、工業も発展すると思えます。

増田 岩手県は電力供給量が低いので、今回の発電受注には大きな期待を寄せています。それと同時に、国、地方とも大変厳しい財政環境ではありますが、限られた財源を効率的に運用し、既存のものを活用するなど重点的な計画推進を行えば、アクセスの問題も早い時期に解決すると思えます。

分権の基本は自立自治

増田 今井さんは経団連の副会長のほか、行政改革推進委員会の委員長も務めていらっしゃいますが、いま行財政改革とともに大きなテーマとなっているのが地方分権だ

「イスムの時代」独自の「ジョン」主義が問われ、求められている時代」という意味から命名しました。

今井 敬氏プロフィール

昭和四年（一九二九）神奈川県生まれ、東京大学を卒業後、新日本製鐵（株）の前身である富士製鐵（株）に入社、岩手県釜石製鉄所にも勤務。昭和五十六年（一九八一）新日鐵取締役就任、その後常務取締役、代表取締役副社長を経て、平成五年六月から代表取締役社長。現在（社）経済団体連合会副会長、国際鉄鋼協会副会長、産業構造審議会委員、財政制度審議会委員。



と思います。地方の時代といわれて久しいわけですが、今後予想される社会状況の中で、最も必要と感じられる点は何だとお考えですか。

今井 いま日本が直面している問題は、資金の安い旧社会主義国がマーケットに参入してきたことにより競争が激化し、産業の空洞化が起きていることと、高齢化社会が進んでくることとです。この両方が何を意味するかといえます。経済の活力が失われていくということなのです。そこで私たち経済界は、規制の撤廃や緩和を主張しています。狙いは二つありまして、一つは新しい産業や企業が起りやすくすること、もう一つはやはり高コスト構造の是正です。例えば輸送問題をとってみても、日本はさまざまな制約を受けています。また今回の発電受注のように、既存のインフラを活用すれば、新しい立地をつくるより安く上がる。二つした制約や規制を取り払うことが、高コスト構造を是正し、ひいては経済の活性化につながると思います。

増田 全く同感です。これから日本が世界の中で生き残っていくためには、経済構造をはじめとするこれまでの仕組みをガラッと変えて、その中で新しい芽を育てていかなければなりません。そこで問題となるのが、既得権との兼ね合いですね。規制を外すというには、いままで規制を守られていた産業からみれば既得権のはく奪になりますから、苦しい状況になることが考えら

れます。経済が右肩上がり伸びてきたころと違い、大きな変化も望めないわけですから、企業も国民も、私たち自治体も自立していかねばいけないと思います。

今井 まさしく自立、自己責任、自己負担の原則です。我々の議論でもいつもぶつかることなのですが、戦後言われ続けてきた「国土の均衡ある発展」をそろそろ考え直さなければならぬと思うんです。これまで交付税といった形で国が地方財源の調整を行ってきたわけですが、今後ますます財政難になるとそれも厳しくなる。地方も自分たちで財源を確保し事業を行うという時代になってくると思います。つまり自立自治の考え方ですね。もちろん国の基幹となるインフラ整備は国として進めなくて



はなりません。それが本当の地方自治ではないでしょうか。

優勝劣敗も自己責任

増田 自立自治という考え方をすれば、行政にも経営の視点を欠かすことができせん。御社の中期経営方針には、経営ソフトのリストラクチャリングがうたわれていたが、具体的にはどのように進められたのでしょうか。

今井 生存のようには当社にはたくさんのお客様があり、すべてを本社で管理して、例えば設備投資をする場合、各製鉄所は膨大な予算書を持って陳情にきます。それでは無駄が生じる。そこで製鉄所単位で経営を自立させることにし、自立することには「それ以上本社サイドからは設備を減らさない」と約束しました。その中で自分のコストの収益に貢献するようになりコストカットが要求しなくなり、非常に効率が上がったのです。このことは地方自治にも通じることです。自主財源を確保してその中で特色を生かしていくこと、それが地方分権の姿ではないかと思っています。

増田 結局、地方分権も自己責任に帰着するということですね。私は県政運営の基本に「分権型地域社会の創造」を描いています。これは地域が自らの主体的判断により地域

新日鐵と岩手

安政四年（一八五七）十二月一日、岩手県釜石市の大橋鉄山で、大島高任は鉄鉱石をもちいた日本初の洋式高炉による初出鉄に成功した。釜石が近代製鉄発祥の地といわれる所以である。戦後、昭和二十五年（一九五〇）には富士製鐵釜石製鉄所が発足。昭和四十五年（一九七〇）の新日本製鐵発足に伴い、釜石製鉄所は新会社に引き継がれている。現在は対談の冒頭紹介した高級カレイマツバチを養殖する第三セクター、株式会社サンロクに資本参加するなど、地域経済の振興に大きな役割を担っている。

経営を行い、その結果についても自ら責任を負つていくものです。例えば最近話題となっている公共事業にしても、一律に削減するのでなく地域に選ばれる。そのかわり結果の責任はその地域でとる。そういった新しいシステムが必要となるでしょう。よく地方分権の話になると、いわゆる受け皿論が言われますが、私はその原則さえ踏まえていけば、あとは地方の責任で進めるべきだと思えます。ましてや、これからは自治体も競争の時代。一面ではどうしても優勝劣敗の状況が出て来るを得ないわけですから、時代に先んじて自立した方が有利だといえます。

今井 民間企業は利益が一つの尺度になるわけで、私もは製鉄所に任せたことよって効率を上げることができました。ですから、行政の場合も、地方が自己責任で進めることが、日本の限られた資源を有効に活用する道だと思えますね。

今井 イズ台は自然体

増田 今井さんは国際的にも多方面で活躍されていらっしゃいますから、最近では岩手においでになる機会も少ないのではないのでしょうか。

今井 いえ、先日釜石へお邪魔したばかりですし、プライベートでもここ数年、夏休

みは岩手で過ごしています。特に、岩手の雄大な自然は素晴らしいですね。一つの大きな財産だと思います。それから地域性でも言うのでしょうか、優れた人材も多く輩出していますね。

増田 戦前の原敬、高橋實、米内光政、戦後の鈴木善幸さんと、総理大臣が四人おりますし、国際連盟事務次長まで務めた新渡戸



稲造、文学者では石川啄木や宮沢賢治も岩手県人です。

今井 県人ということではありませんが、来春開学する岩手県立大学の学長に世界的な半導体の権威、西澤潤一さんを起用されたことも素晴らしいですね。

増田 やはりいま最も必要なことは人づくりにだと考え、西澤先生にお願いしました。

人材を含め、岩手の潜在的な能力を引き出していただけるものと確信しています。

今井 特にこれからの時代は、厳しい変化に対応できる人材が必要となるでしょう。私は常々自然体といいますが、変化に対して自然に対応できることが大切だと考えていますし、それが一番発展するものであり、ストレスもなく健康的だと思えます。

増田 柔軟性、あるいはしなやかさでも言うのでしょうか。例えば、史上最年少でマスターズ・ユルフトーナメントで優勝したタイガー・ウッズ選手のように、柔軟性としたたかさを持った人材が求められているという事ですね。私も含めて、岩手人にはどこの大地に根ざした「ツツツ」ところがありますので、それにしなやかさとしたたかさ加われば万全だと思います。

今井 しっかり地に足をつけて、世の中の変化に対応していくことが大切です。岩手には素晴らしい自然と文化の基盤があるわけですから、一方ではそれを大事にしなから、一方では新しいものも取り入れていく。そして、岩手の特徴を遺憾なく発揮し、個性ある地域をつくらなければ、大変素晴らしい県になると思います。

増田 まさにこれからが地方の時代、個性豊かな、イスマの時代ですね。今日は自治体運営に役立つ貴重なヒントをいただきました。これから岩手の応援団として、声援いただければと思います。お忙しいところ、ありがとうございました。

「幻」と「皇帝」の魚を三陸から



マツカワ

対談に登場したマツカワは、カレイ科マツカワ属の魚で、表皮が松の皮に似ているところからその名がつけられた。近年漁獲量が激減し、天然ものがなかなか手に入らないため、幻の魚、高級魚と呼ばれている。マツカワの特徴は、身のしまりがよく、天然ヒラメに勝るとも劣らない歯ごたえと食感。お造りや寿司種、和え物にしてもうまい。なかでも珍味といえるのが、背じしと腹じしに活きた、えんがわと呼ばれる部分。適度に脂がついた絶品である。現在マツカワは釜石市を中心に、南三陸沿岸一帯で盛んに養殖されている。

チョウザメ

もう一種、養殖に力を入れているのが「チョウザメ」である。チョウザメといえば、世界三大珍味のひとつに数えられる卵の「キャビア」が有名。古来ヨーロッパや中国、ロシアで珍重されてきた。イギリスでの呼び名はロイヤルフィッシュ(皇帝魚)、中国では鯨魚と称し、魚類の最高位に置かれている。

魚肉の特徴は、低脂肪、高タンパク、低カロリーで、コレステロールを減少させる高度不飽和脂肪酸が多いこと。淡水魚特有の臭みもなく、和・洋・中いずれの調理にもなじむ。ちなみに中華三珍のひとつ「フカヒレ」も、チョウザメのヒレである。



知の大地に人が育つ、岩手県立大学



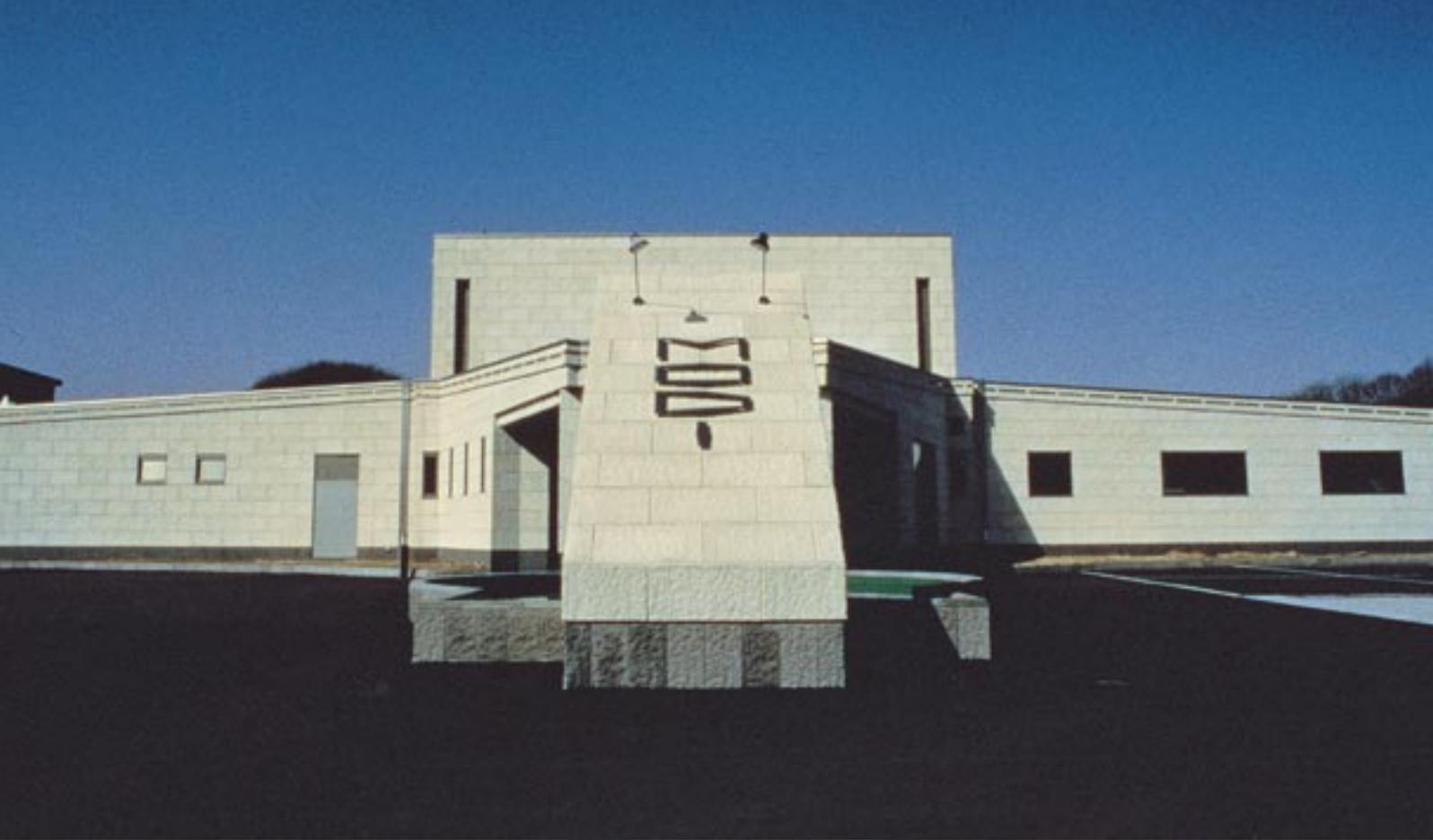
西澤潤一(にしざわじゅんいち)

一九二六年宮城県仙台市生まれ。工学博士。一九四八年東北大学工学部卒業。同大学助手助教授を経て、一九六二年同大学電気通信研究所長、一九八三年から同研究所長、一九九〇年から一九九六年十一月まで同大学総長を務める。半導体レーザー、光ファイバー、光検波器の発明と研究で今日の光通信の基礎のほとんどを創案。「ミスター半導体」光通信のバイオアトと呼ばれる。一九八九年文化勲章を受章。



宮沢賢治に石川啄木、新渡戸稲造、原敬をはじめ、政・財・学、あらゆる分野に優れた人材を輩出したこと岩手に、来春県立大学が開学する予定だ。県立大学には、看護、社会福祉、ソフトウェア情報、総合政策の各学部を設置。人間や現代、科学のさまざまな問題を多角的な視点から浮かび上がらせるユニークな授業を取り入れ、地域に根ざしながらもグローバルな視野をそなえた人材の育成に努める。

また、初代学長には前東北大学総長で、世界的な半導体の権威・西澤潤一氏が内定。これからの情報化社会や国際化に対応した教育、研究をめざす。雄大な岩手山を目前に、広いキャンパスでのびのびと学ぶ。木々の緑に調和したレンガ色のモダンな校舎に、若い歓声がこだまする日も近い。



本物のデザイナーを育てるには アイデアを具現化できる空間が必要だ [株式会社モディー]

株式会社モディーはポスターからプロトタイプ(試作車)まで、あらゆる工業製品のデザイン、設計、製作、製造を行う総合デザイン研究所。二十一人の社員に用意された施設の総面積はなんと約四千七百三十三平方メートル。デザインを原寸大で具現化することが可能な最新の設備を有する広大な試作研究スタジオがあり、デザイナーたちはものづくりの現場を体験しながらデザインワークに取り組んでいる。

東京のデザイナーがうらやむ好環境

デザイナーの環境がデザインされているかといえ、ば多くの場合、そうではない。狭いオフィスで背中を向け合つて、とりあえず確保されている机という小さな創造空間の上に、大きな夢を描いているのが現状だろう。デザインが仕上がつたら、モデルの製作は外注である。仕上がってきたモデルを見て、イメージと違つて、何かが足りない」と不満を残す。「だから日本のデザインは育たない」と、モディーの村上圭佑社長は、この分業的なやり方に異議をとをえる。

「学校でもデザイン画しか勉強していないし卒業してすぐにデザイン会社に入るから、いつまでたつても机上のデザインしかできない。いくらカッコいいスケッチが描けても、製品化できないようなものじゃ、意味がない。欧米のデザインが優れているのは、デザイナーがものづくりの工程をしつかり学んでいるから」。

村上社長は、デザイナーが思いついたアイデアを、その場ですぐに試作できるようなデザイン研究所をつくらうかと考えた。

モディーは機能別に三つの施設で構成されている。公道を走れる自動車を一貫して作れるほどの最新の設備を持つ、ものづくりの現場としての試作研究スタジオ棟。核となるデザインオフィス棟には、スケッチを起こすためのデザイン室、設計などをするためのCAD・CG室、パソコンが机ごとに置かれている開発情報処理室、海外の自動車メ

ーカーの書籍がずらりと本棚に並びデータ室、AV機器を装置したプレゼン会議室などがあり、デザイナーたちは、仕事の内容に応じて自由に部屋を行き来している。

極めつきはリフレキシブ棟。宮大工に建てさせたという釘を一本も使っていない和風建築で茶室、サウナまで整えられている。

「デザイナーは変なヤツが多いからね。いい環境を与えてやらなくては、東京では地価が高くてこれだけのものを造るのは不可能に近いでしょう」と、村上社長自ら案内してくれた。

ものづくりを尊重する現場主義

村上社長は一関市生まれ。子供の頃から車の好きだった。中学卒業後、地元の整備工場に勤め、二十歳の時、上京して自動車メーカーに就職。二十四歳でオートバイの部品卸をする村上商会を設立した。現在の村上商会は本社を東京都目黒区に置き、主に自動車の純正オプションパーツを開発、製造している企業である。岩手県の一関市、山田町と、宮城県の瀬峰町の三カ所に工場を持っている。

村上商会を創業した時、村上社長は、二十五年はまじめに稼いで、あとの二十五年は好きなことをする」と宣言した。そして、その言葉通り五十歳の時、一関工場の敷地内に、「好きなことをするため」のKM中央研究所を設立。村上グループの研究・開発部門として、ロボットの開発・製造や、素材開発、マシナー型や各種量産型の開発・製造などを始めた。実は村上社長は、製法に関するものを中心に、三十を超える特許を取得している。発明王」なのである。

KM研究所では、超軽量素材を用いたF3レーシングカーのボディや、プロ野球で使つたりフカー、モーターショーに展示するコンセプトカーなども数多く受注している。さらに軽量素材の応用研究から航空機やレジャーボートをつくり上げたり、水陸応用車を自社開発したりと、開発力、技術力に対する評価は高い。ものづくりの工程を尊重

する。現場主義。は、すでに技術研究の面で実践されていたのである。

デザインで、ものを売る時代

「今はどんな製品でも技術力にあまり差がなくなりました。そうなる」と製品の売れる売れないの差がどこに現れるかという、デザイナーなのです」。

村上社長が一関工場の敷地内にデザイン研究所の設立準備を進めていた時、岩手県と一関市が支援を申し出た。デザイナーやクリエイターを地元で育てられ、地域のデザイン性の向上が期待されるからである。

こうして自治体のコーディネートにより印刷、建設、アパレル、弱電など異業種二十三社が出資して平成四年に設立された企業体がモディー。M O D I E は、multiplex organic design institute (複合組織デザイン研究所)の略である。モディーは通産省のプロジェクト、知識集約化共同事業」に認定され、国内有数のデザイン組織として華々しいスタートを切った。

取材の日、モディーのデザイントレーニング室の扉は固く閉ざされていた。というのも今年のモーターショーに発表されるコンセプトカーを制作中だからである。アジアのある国で生産される大衆車の量産型もつくられているところだった。車名を書けないのが残念だが、かつて話題を呼んだプロトタイプや一般車の中にも「ここから生まれたものがある」。

ある自動車雑誌には、日本のカワツツエリアをめざしている」と書かれているが、社長に将来像を質問すると、「ヒツツかな」と謙虚に首を傾けて、まんざらでもなさそうにほほ笑んだ。

岩手県一関市字沢一九七 一四
電話〇一九一 一三三 四三三七三
平成四年一月二〇日設立
平成七年一月一八日操業
資本金九、九〇〇万円 従業員数二三名

宮古漁業協同組合が製造・販売する、さけの中骨水煮。缶詰は、鮭博士こと中嶋哲氏が考案し、平成四年に売り出された。その後、大手メーカーなど三十数社から類似品が続出し、今ではカナダやソルブターで加工し、輸入しているものもある。中骨缶詰市場の総売上は百億円を超え、缶詰業界久々のヒット商品となった。

しかし、金もつけは下手だった

まったく、この人たちは人がいい。

「さけの中骨水煮」缶詰の発売からわずか半年で続々と市場に現れた大手メーカーの類似品を並べて、中嶋氏は言った。「特許は申請したんですけど、なかなか下りないんですよ。面倒だからそのまんま。大手メーカー相手に、類似品だと訴訟を起させるようなお金は持っていない。金もつけはできなかったけど、百億を超えるヒット商品になったから満足ですよ。」

製造・販売元である宮古漁協の業務課主任、大澤春輝さんも言う。「私もは昔利団体ではありませんので、中骨缶詰によって鮭の有効利用を全国に提案できたことが一番の成果だと思います。いずれにしても、この加工工場では一日五千缶が限界ですから、漁協の事務所から見下ろす宮古湾のように、穏やかである。

終始こんな調子で、とりたてて売り込みもしなかつた。さけの中骨水煮缶詰が平成五年、大ブレイクした。原因は、週刊朝日に連載していた東海林さだお氏のエッセイ。鮭缶について語っている中に「鮭缶の骨だけ缶があったらいいのに」というくだりがあったのだ。それを読んだ宮古市民が、「あります」と東海林氏へ中骨缶詰を送り、翌々週のエッセイで紹介されるやいなや、宮古漁協の電話が鳴り続けた。工場はフル稼働し、年間百七十八万缶を販売した。

昨年の販売数は二十二万四千缶。やっと普通の缶詰になりました」と、大澤さんはよく日

に焼けた顔にいたすらっぱい笑みを浮かべた。老人性痴呆の予防に効果あり

中嶋氏は、平成四年から宮古漁協の加工開発室室長をしているが、高校卒業から定年退職までの四十一年間、母校である宮古水産高校の水産製造科で実習助手をつとめていた。その間に「いたあだ名が『鮭博士』。練りもの、燻製、紅葉漬、新巻、鮭節、メウ入腎臓を熟成させた塩辛など鮭のあらゆる加工法を研究・開発し、鮭の皮細工まで作ったオーソリティーだ。」

中骨缶詰の加工技術も昭和六十二年には確立していたもので、平成四年に開催された「三陸海の博覧会」で、鮭のまち宮古」をPRするために商品化したのだ。岩手県は本州の鮭の水揚げ高の約七十%を占める鮭の県。そのうち約五十%は宮古市で水揚げされているのだ。中骨缶詰を思いついた時のことを中嶋氏はこう話す。学校で鮭の加工をしていました。イクラをとったメス鮭を三枚に下ろして、身は練りものや燻製にするんです。が、脇に山積みなうていく骨がもったいないなあ、と思うたんです。日本人に不足しているカルシウムの固まりですからね。栄養がピンピン光って見えました。」

中骨缶詰、缶に入っている骨は、鮭一匹分。カルシウム量は十日分の必要摂取量に相当する。また近年、世界的に注目を浴びているのが、鮭やイワシなど、青い魚。しか持っていないといわれる脂肪酸のDHA、トコサヘキサエン酸だ。老人性痴呆の予防に効果があるという。

平成七年、宮古漁協は次なる商品「さけの中骨」粉」を発売した。これは中骨の粉末で、一缶に中骨缶詰の三倍の骨、つまり三倍の栄養が詰まっている。市販だけでなく煎餅店などからの引合もあり、新たな広がりを見せている。

岩手県宮古市光岸地四番四十号
電話〇一九三 六一 一一三三四

「もったいない」から始まった、宮古漁業協同組合





三世代で楽しめる地域密着型プロレスなのだ。 [株式会社みちのくプロレス]

株式会社みちのくプロレスは日本で唯一、地方に本拠地を置くプロレスリング興行会社。二十八歳にして社長兼トップレスラーであるザ・グレイト・サスケ氏が、メキシコ修行で体験したアットホームな雰囲気のカール・プロレスを、プロレスポットや娯楽の少ない東北の地に実現しようと盛岡市に帰郷し、平成四年に設立した日本初のカールプロレス団体である。

アットホームなプロレスを

力道山が国民的ヒーローだった頃、みんなプロレスが好きだった。一家そろってテレビに向かい、声を上げて応援したものだ。なのに、いつからだろう、プロレスと聞くとも眉をひそめる人たちが多くなり、気がつくとも、テレビの放送も深夜の時間帯へと追いやられていた。

六年前、世界でもっともプロレスが盛んな国メキシコへ修行に行ったサスケ氏は、地方のまちにもプロレスが根づいていることに感心した。まるで祭りのそきに来るような気軽さで、まちなかの老若男女が集まってくる。入場料はリングサイドでも日本の感覚で五百円くらいだろうか。子供でも買えるくらいに値段である。リングサイドで目を輝かせる子供たち。会場の熱狂。そして、そこには今やマラックになり過ぎてしまった日本のプロレスとは違う、「どこがアットホームな雰囲気があった。

「喂てみたら、東京がなんだかつまらなく見えたんです。その頃、所属していた団体は経営不振で一年間もノギヤラ。アルバイトに追われる日々にはふんきりをつけた。

「日本初のカール・プロレス、やってみるか。兄貴分として慕われていたサスケ氏は、十四人の仲間を引き連れて盛岡へ帰郷し、平成四年十月、みちのくプロレスを設立した。

業界の反応は冷やかだった。ファンからも「新日本プロレス」や全日本プロレス」にかな

うわけがないのに」「東北で何せ「トコ」をやつてんだ」といった手紙が数多く送られてきた。しかしサスケ氏は、迷わなかった。

「みちのくプロレスは、東京にひしめきあっている三十余りの団体とは市場そのものが違う。独占市場なんですね。そうか俺の一人舞台じやんと思つた時、みちのくプロレスを成功させて、東北を盛り上げることが自分の使命なんだと感じました。それに、東北の地でファン層の底辺を拡大することは、プロレス業界にも貢献することになるはずです。」

今は六割が出稼ぎ収入だが

全席自由の「ゴザ敷き」席で、子供からおじいさんまで、三世代が同居して『盛り上がる。このカールな雰囲気味わいたくて小さな町での開催を選んで足を運ぶ首都圏のファンもいるという。入場料は、一般三千円、小中学生千円(当日は五百円増し)。低料金が身上だ。『東北の、特に町や村は、体育館の使用料が安いので、ずいぶん助かっています』と、広報部長の篠塚誠一郎氏は説明を添える。

この低料金での採算ラインは一日五百人の入り。だが現実には二百人に満たない日も少なくない。その赤字分を埋めているのが、出稼ぎ』と呼んでいる東京や東北以外の地域に招待される試合である。昨年度の年商は約五億円。その六割は、出稼ぎ』の売上だった。今年はそのヒバリー・ヒルズに支部を出し、アメリカ進出も決まっている。ファンが呼んでくれれば、どこへでも出かけます。でもいずれば、東北エリア限定の興行にしたい。ねぶたやなまはげのように、東北へ行かなければ見られないものになることが、みちのくプロレスの目標』と篠塚氏。今、東北でもっとも元気な企業である。

岩手県盛岡市材木町九 八

電話〇一九 六二六 一三三三三

七時雨

ななしぐれ。盛岡の北約四十キロ、安代町と西根町の境にそびえる標高一、〇六〇メートルの山。裾野の田代平高原には牧野が広がるのどかで牧歌的な雰囲気。ただよふ童話や詩など、独自の世界を描き出したかの宮沢賢治も、七時雨の風情を心象スケッチ「春と修羅」に残している。幻聴の透明なひばり七時雨の青い起伏はまた心象のなかにも起伏し天候が変わりやすく、雨が降りやすいところから名づけられたといわれる「こ七時雨」にも、暑く短い夏がやってくる。

出典は、築摩書房 宮澤賢治全集 詩 一本木野より





岩手を超えて生きる男。

菊池牧場

菊池庸博



「新しい試みとは、世の中の進歩である」と、その男は言い切った。彼は周囲に批判されながらも、新しい挑戦をやめなかった。妥協するなへっつらうな、おのれのプライドを信じる。心の中で叱咤しながら、自分を貫いた。牧場経営者として、農業者として、ひとりの男の生き様がここににある。

岩手にやってきた三〇年前、荷物はたったひとつの夢だった。

牧場主というから、もつと朴訥で土臭いイメージを抱いていた。目の前に現れた白髪混じりの男は、それとは違って、議論好きでよく話し、さまざまな知識に長けている。一度会ったら忘れられない、そんな強烈な印象を受けた…。

ユトクな牧場経営をしている人間がいると聞いて、岩手郡岩手町一方井(いっかいたい)を訪れた。ここは、奥羽山脈と北上山地が接する山間地帯であると同時に、岩手の大動脈北上川の水源地帯。その山間のなだらかな斜面が広がる場所に、「菊池牧場」という民間牧場がある。この経営者が、菊池庸博(つねひろ)その人である。昭和九年生まれの六三歳。一五〇町歩という広大な牧場を切り盛りする、敏腕経営者なのである。

実を言つて、彼は岩手の人間ではない。小学生時代までを岩手県宮古市で過ごしたが、それ以後は東京で育った。大学卒業後、酪農の道へ。埼玉で酪農家を一五年、都心近郊での仕事の限界を感じていた頃、知人の紹介で岩手に移転することを決断した。

今から約三〇年前の昭和四〇年代、ちょうど、大々的な北上山系開発が始まった頃のこと

である。菊池さんは、ただ自分の夢だけを抱え、奥さんと子供二人を連れて岩手の地を踏んだ。

新しい発想を受け入れれない土壌で、

ひたすら自分自身を耕していく。

「来てみたら、ひどいものだった。石がゴロゴロしている斜面を、少しずつ開拓することから始まったんですよ。米も買えない、電気も止められる。そんな状態だったのです」。三〇年前である。しかも貧しい山間部での開拓である。補助金を受けようにも、彼が目指していた牧場経営は、当時の岩手ではなかなか理解されない。新しい試みは、奇異にしかとらえられなかった。

「二〇頭ぐらいの牛を細々と飼っている酪農家がほとんど。それもまきばを共同所有して放牧するスタイル。たまた二人で一五〇町歩もの牧場を手がけるなんて、周囲には考えられないことだった。岩手における酪農は、一頭一頭に対する、世話の負担が大きい。自ずと飼育できる数も限られる。多少数を増やしたからと言って、経済的に豊かになるわけでもない。

だが、菊池さんが試みようとした酪農は、発想から違っていた。農機具として工用のブルドーザーを買う。一八〇頭もの牛を二人で世話をする。自営で食品加工まで手がける。そのやり方は欧米の農場のスタイルに近い。

「農家はもつと農業に投資するべきなんです。そして農家としての独自性と誇りを持たなければ、事業として農業を発想しなければ。地域性を否定するのではなく、地域性を個性として考える。厳しい現実をプラスに転じる発想、それが菊池流の哲学である。

世界のオートバイ屋と農場の接点。その先にはある構想が見えていた。

本田技研に牛を飼わせた男として、菊池さんは雑誌に取り上げられたことがある。あの本田宗一郎に、牧場経営を持ちかけた張本人なのだ。海外で仕事しかできないのでは通用しない、他に何をやっているか話せることがあるのか。それが、落とし文句だったと言う。

「牛の流通の新しいバイパスをつくりたかった。大企業とつながることは、数万人の従業員とつながること。新しいマーケットの拡大ですよ。残念ながらその牧場は閉鎖されて、夢は実現しなかったが、彼の発想とはつまりこういうことである。酪農家と言うよりも企業家、いや肩書きをはめること自体が間違っているのかも知れない。

そういつ自由奔放さは、子育てに対する考え方にも当てはまる。菊池家の三人の子供たちは、それぞれ、ドイツ、スイス、フランスと、農場先進国であるヨーロッパでの留学経験を持つ。長男は中学卒業と同時に、ドイツに渡り、食品加工を徹底的に学んだ。帰国後は牧場で自ら、食品加工の責任者として指揮を執っている。

「家族経営の農場はよくあります。でも仕事に活かすような投資をしているところは少ない。おやじが夢を持ってやってきたのを見て育っているから、理解してくれていると思いますけど」。生きた投資。それは子供たちにとっても、人生の大きな財産となっているように思う。

前例がなければ、自分がつくる。

岩手で生まれた、超日本的発想。

農業は単独で成り立っているわけではない。農

業を支える産業があつて、はじめて農業は発展すると、菊池さんは言う。肉は肉、牛乳は牛乳という閉鎖的な産業のあり方が、互いの成長を阻んでいるとも言う。

「ヨーロッパでは農業と他の産業とが支え合つて、豊かさを築いている。でも、日本は違う。それなら、まず自分が実現してやろうと思つたんです」。

旨い部位の肉だけを集中的に売り込むメーカーに対して、菊池牧場は牛一頭をまるまる使いきってハムやソーセージをつくっている。牛乳しかり、バターしかり、チーズしかり。菊池さんの考える基準は、コストでも生産性でもない。底辺には常に、豊かさとは何か、農業のあるべき姿とは何か、という問いかけがある。岩手に限らず、他県から注文が多いのも、そこに食べ物に対する本當の価値を感じているからではないだろうか。農家の生まれではない菊池さんだからこそ、農業に対する貪欲な向上心があり、新しい発想があつたのだ。

「昔、農場の手伝いをして、こんな懲り懲りだと思つて笑)。だから自分がやるならカッコいい百姓になりたい。日本一の農業をやつてやろうと思つたのです」。六三歳にして、まだ彼は夢の途中にあると言う。夢を追いかけること自体が、彼の生き様そのものなのだ。

菊池牧場



岩手県岩手郡岩手町大字一方井一―三五六

〇一九五一―六二―二四四四

ホモ・サピエンス 「ひょうこりひょうたん人」出現!?



「出るか、日本最古の人骨」。

今年のゴールデンウィークはこの話題が新聞紙上をにぎわせた。話題の舞台は岩泉町の瓢箪(ひょうたん)六遺跡。

一九九五年に始まった発掘調査は三年目。狙いは旧石器時代の旧人、十五万年〜三万年前の人骨化石である。

瓢箪六遺跡は、岩泉町中心部の東側、小本川支流に沿ってそそりたつ岩山の標高七十九メートル地点に開口した洞穴である。川との比高差は約五十メートル。浸食の状態からみて、三万年以前に形成されたものと考えられている。

洞穴の大きさは幅約二十メートル、高さ十メートル、奥行き約二十メートル。穴の奥に人が立てるほどの空間がもうひとつ広がっていて、瓢箪のような形をしているところからその名がつけられた。

アルカリ性の土壌でタイムスリップ

岩泉町一帯は、約一〜二億年前に形成されたわが国最大規模の石灰岩地帯。日本三大鐘乳洞のひとつ龍泉洞をはじめ、町内には百十二

もの洞穴があり、そのうち約二十ヶ所は洞穴遺跡と見られている。

瓢箪六遺跡が関係者の期待を集めているのもこの石灰岩質という土壌のため。日本の平野部のほとんどを覆う酸性の火山灰土壌とは違い、人骨も溶けずに残っている可能性が高いからである。

実際、東北旧石器文化研究所(鎌田俊昭代表)と東北福祉大考古学研究会(梶原洋助教授)を中心とする調査団の第一次調査では、四〜五万年前に旧人が狩猟したとみられるシカの焼けた歯や骨片が出土。人類の生活痕を残す日本最古の洞穴遺跡であることが判明した。また第二次調査では、五万年以上前の地層から人類が採取した最古の貝殻と思われるマシジミが出土。今年の第三次調査では、七〜八万年前の

地層から尖頭器が見つかり、最古の年代を更新している。

日本版「ネアンデルタール人」出現か!?

これまで国内最古といわれていた洞穴遺跡は、長崎県の福井洞穴で約三万年前のもの。人骨が出た洞穴としては大分県の聖岳遺跡が最も古く、約一万五千年前といわれている。

また、国内最古の人骨は、沖縄県の、山下町洞人で約三万二千年前。全身の骨格が分かる人骨としては、約一万八千年前のものと見られる沖縄県の、港川人¹が最古といわれてきた。さらに、地球上にわれわれと同じ現生人類が誕生したのが、約三万七千年前。現代人からだつきが似ている最初のホモ・サピエンスネア

ンデルタール人の登場が、約十三万年前といわれている。

とすれば、五万年前の地層から残存状況のよいクマの歯や貝殻が出ている瓢箪六遺跡は、骨の解けにくいアルカリ性の土壌を考えると、日本最古の人骨化石が出土する可能性が非常に高いといえる。三十万年以上という瓢箪六の古さからすれば、もしかするとネアンデルタール人に匹敵する旧人が発見されるかも。旧人が発掘できたら、名前は「ひょうこりひょうたん人」。私たちの世代はこれしかないでしょう。とは、東北旧石器文化研究所の鎌田代表、岩泉町教育委員会の田鎖康之学芸員も、調査予定の五年で人骨が出なかった場合は調査方法を洗い直し、再度発掘調査を進めるでしょう。旧人発掘への意気込みは大きい。

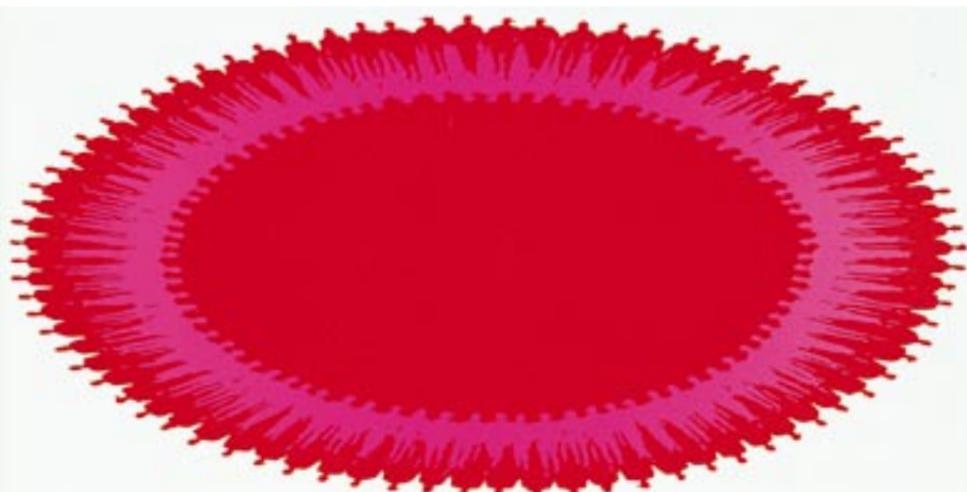


瓢箪六遺跡から出土した遺物(第一次、第二次調査) 同部磨製石斧、旧石器時代後期(約二万五〇〇年前) 焼けたシカの中足骨(推定)、旧石器時代中期末(約三〜四万年前) (約三万年前) 焼けたシカの歯、鋭い刃物で削られたような痕跡あり、と同じ地層より出土。 シカの中足骨、たまたま割ったような痕跡あり、と同じ地層より出土。 基部を除いて二次加工したスクレイパー(皮をなめす道具)。あるいは斜軸尖頭器か、旧石器時代中期末(約三〜四万年前)ほど二次加工は少ないが、左側面に火を受けはじめ残っている。黒色硬質頁岩、同じ地層より出土。 全周面に細かい二次加工。黒色硬質頁岩、同じ地層より出土。

右側面と先端部に丁寧な二次加工を施した斜軸尖頭器。珪質頁岩、旧石器時代中期(約四万〜五万年前) 上端の打面周辺に細かい二次加工を施したものの。珪質頁岩、同じ地層より出土。 表面全縁面に二次加工のある石錘。上端にやや大きめの階段状刻線。黒色硬質頁岩、同じ地層より出土。 左側面にやや粗い二次加工を施した斜軸尖頭器。流紋岩、旧石器時代中期(約四万〜五万年前) 剥片の背面に他方から剥離された痕跡。円盤型石核剥離技術が想定される。最大厚二・二mmあり、断面には写真上部から剥片が剥離された痕跡。さらにその打面付近に粗い加工が施され、縦溝状石器となっている。流紋岩、旧石器時代中期(約五万年前より古い) 両側面から先端にかけて小さな加工を施したスクレイパー。黒

色硬質頁岩 左右非対称の台形状の剥片の鋭角な部位に丁寧な加工を施した斜軸尖頭器。黒色硬質頁岩、同じ地層から出土。 右側面に折れ面があり、左側面の表面に二次加工を施したスクレイパー。黒色硬質頁岩、同じ地層から出土。 打面の一部を含め、全縁面に二次加工を施したスクレイパー。旧石器時代中期(約四万〜五万年前)と同じ地層から出土。 表面両側面に平坦な二次加工を施したスクレイパー。先端には折れ面が見られるが、そこに更に小さな加工。珪質頁岩、同じ地層から出土。 クマの歯。于メル質までよく残っている。同じ地層から出土。

日本文化デザイン会議'97岩手



デジタルな時代だからこそ、「モノ」にこだわりたい。
 ——もの かつり——をテーマに開催された第18回日本文化デザイン会議は、
 初夏の香りただよう古都・盛岡を会場に、延べ32,600人の参加者を集め、5月30日から6月1日までの日程を終了した。
 '97岩手会議の議長は、建築家の黒川雅之氏。ミクロからマクロまで、物質世界の深層に迫る
 6つのサブテーマを設定し、多彩なゲストを招いてのさまざまなセッションが行われた。
 地元岩手からも、伝統工芸「南部鉄器」の制作者や民俗学者などが多数参加。
 岩手の伝統文化に根ざした活発な議論が繰り広げられた。
 最終日、日本文化デザインフォーラム代表の黒川紀章氏は大会を総括し、「これまでにない
 幅広い参加者は岩手の持つ豊かさの表現。21世紀の文化の創造がここから始まる気配を感じた」と、
 心象風景を描いた作家宮沢賢治のふるさとで開かれた岩手会議の成功を高く評価した。



日本文化デザイン会議'97岩手協賛イベント
 みちのく国際ミニステリー映画祭
 '97 盛岡

「日本初 盛岡発」をキャッチフレーズに、映画館の街・盛岡で、第一回みちのく国際ミニステリー映画祭が開催された。

この映画祭は、市内の映画ファンが四年前から始めた市民活動がきっかけ。城下もりおが四百年の記念事業の一環として実現した。

また、国内初のミニステリー映画祭ということから、今年設立五十周年を迎えた日本推理作家協会も特別協力。理事長の阿刀田高氏をはじめ、遠坂剛氏、北方謙三氏など、多数の推理作家が参加した。

ゲストのなかで最も注目を集めたのが、フランスの推理作家で、映画監督でもあるシヨゼシヨマン氏。名作『険者たちのオマージュ』上映に先立ち舞台あいさつや撮影時のインタビューを披露するなど、自ら作品の見どころを紹介していた。

盛岡は、地方都市には珍しく映画館の多い街で、通称「映画館通り」と呼ばれる目抜き通りには十二の映画館が建ちならぶ。期間中会場となった各劇場には、延べ八〇〇〇人が入場。迫力ある映像と、主演俳優や監督、作家らとのふれあいを満喫していた。閉会式では、大会唯一の表彰となるミニステリー映画新人監督奨励賞が発表され、女優並木かを制作した中田秀夫監督が、栄えある第一回奨励賞を受賞した。

今回の成功を機に、地方からの情報発信を「コンセプト」とし、みちのく国際ミニステリー映画祭の継続開催への気運も高まっている。

出過ぎたもの、特殊なものがこれからの魅力

自己満足的な広報はやめよ

学生時代アルバイトで旅行の添乗員をしていたころ、何度か岩手を訪れました。とにかく、岩手はデカイというイメージ。ほとんどが観光地だったせいか、自然の玉手箱といった印象があります。

今度岩手県でも県外向け広報誌を発行するそうですが、私自身神奈川県広報テレビ番組を担当して感じていたのは、いかに行政の堅い話題を分かりやすく噛み砕いて伝えるかということ。当然見せる相手によつて、見せ方も変わりますからね。

よく自治体の広報誌といつと、独り善がりといいますが、自己満足的なものが目につきます。いかに行政の発行物とはいえ、誰も特別扱いしませんから、書店にならぶ雑誌などと同じ土俵で競わなければなりません。そこで大切なのがアトラクティブネスつまり引き付ける魅力ですね。

自然や歴史はどこにでもある

では、地域の魅力とはなんなのでしょう。例えば、アメリカでアメリカらしさを表現してくれといつと、音楽であればカントリー・ミュージック、景色であれば田園風景だといえます。日本人が抱くニューヨークやラスベガス、ディズニールンドは、どちらかというとアメリカでは特殊な場所で、本当のアメリカじゃない。です

から、何が本当の魅力なのか、自分たちでよく見極める必要があります。

ただし、自然や歴史は日本中どこにでもありますから、際立った魅力にはなりません。むしろ人にスポットを当ててほしいですね。岩手にはどんな人間が住んでいるのか、どんな生き方をしているのか。それから食べ物。例えば、ホヤとか、確かにホヤには癖があつて、好き嫌いがあると思います。でも、それでいいのではありませんか。とかく行政は、好き嫌いのほらきりするものを嫌います。しかし、日本中すべてが標準化するなかで、世界中にアピールするには異なるものを出さなければ駄目です。これからは出過ぎたもの、特殊なものをドンドン出すべきです。

自己否定しないで殻をやぶれ

不易流行という言葉がありますが、地方からの情報には都会的な要素は意味がありません。それは私たちが作っているからです。ほかと違う刺激、もっと半端な物を出してもいいと思えます。それを誌上で販売してしまつてほしいの勇氣が欲しいですね。

行政だから自己否定しないで、これからは殻をやぶっていかないと。行政だからこそ岩手らしさを出していかなければなりません。広報誌を手にしたとき、岩手だね、と思えるものを期待しています。

日本文化デザイン会議'97岩手は、「いわて」のグランドデザインを考えるひとつの大きなきっかけとなった。
 このコーナーでは、岩手を体験した日本文化デザインフォーラム会員からの熱きメッセージを紹介する。



Warm Heart
 &
 Cool Head
 (わたりゅうじん)



西川りゅうじん

1960年兵庫県生まれ。商業開発研究所(株)レゾン代表取締役、マーケティングコンサルタント。
 「東京ベイサイドスクエア」のプロデュースやジュリアナ東京のコンサルティング、北京王府井倶楽部の企画立案を手がける。
 現在、通産省ヒューマンメディア委員。神奈川県広報番組のパーソナリティーもつとめる。

岩手の大地は南米とよく似ている。

初めて訪れた岩手の地で、シロ・エル・アリ千口は、フォルクロレの古里を思い出し出した。まるでエクスアドルがコロンビアにいるようだ。陽が傾き始めたころ、新幹線の窓に映る山なみ。壮大な風景が目飛び込んできた。「凄いとこにやってくる」。一九九二年の冬のことである。

シロはその後、コンサートを通じて何度も岩手に足を運び、岩手の自然や彼を迎える人々とふれあつうちに、次第に熱烈な岩手ファンとなつていった。そして岩手山との出会い。八幡平から望む岩手山に、金槌で頭をカインと殴られたような衝撃を受けたという。岩手山という美しくも大きな存在が、シロの心をつかんだのだ。

そこから生まれたのが、南部幻想曲である。岩手で着想し、「ニューヨークに戻ってまとめた。岩手の自然、木々の間を渡る風の声、自分を見守っている岩手山、旅人である自分、幻想を見、幻想から醒める自分……。そ

れらをつづつ曲の中に描いた。曲の途中には岩手の民謡、南部牛追い唄も引用されている。

シロが岩手の良さを列挙する。大きな自然、ほどよい規模の人の集積、ゆったりと流れる時間、耳に心地よい訃りのんびりとした空気。シロはそこにフォルクロレの世界との接点を感じる。そしてその内側により深く入っていくことで、シロの中にメロディが湧いてくる。

そこから岩手を歌ったフォルクロレ、南部幻想曲が生まれた。好きにならなからできた。この曲は、岩手ここに出会った人々に対するシロのラブソングなのだ。

シロが師と仰ぐフォルクロレの第一人者アタワルバ・コハンキがそうしたように、シロもまた自然とそこに生きる人々への愛を歌う。その対象が岩手である。岩手山、岩手の首、そこにある下ノミ、自分が出会った人との会話。そんな一つひとつがすべて、曲になつていくのである。

シロ・エル・アリ千口

一九六二年東京生まれ。少年期よりギターに親しみクラシックの道に進む。その後フォルクロレの最高峰アタワルバ・コハンキに傾倒し、一九八八年単身渡米。翌八九年にはコハンキの自宅に招かれ、手ほどきをつける。以後、南米、北米、ヨーロッパを中心に演奏活動を始める。一九九四年にはアイスランドのオペラハウスと大統領官邸でフォルクロレを披露。本場アルゼンチンでも好評を博す本格派である。岩手の風景を歌った、南部幻想曲は、最新作「コンドルレニエラ」に収録。



健康に木づかい。

身近な所に木があると、なぜか気持ちがやすらぐ。木の香り、木の木目、そして手触り。木には、人のからだや触感をゆさぶる、不思議な力があるようだ。今回のテーマは『健康と木』。岩手の職人が生んだ木製品の中から、健康を視点とした商品を紹介する。

石鹸でもない置物でもない、不思議な泡のてん木。

木けん

「木けん」と書いて、「もけん」と読む。製造元はわが国初の地熱発電所でも知られる、松尾村の松川温泉。素材は、伐採による廃木を利用した温浴材。温浴材とは、松川温泉の湯に天然木を数日ひたして作られる木で、生木より軽く、丈夫で長持ちするという特質がある。

この温泉木をさらに改良するために、試行錯誤の過程で生まれたのが木けんである。天然木と脂肪酸ナトリウム・石鹸の主成分の合成によりつくられる木けんは、まさに自然の石鹸。泡立ちばさばさではないが、汚れ落ちは



なかなかのもの。しかも、使っても使っても形は変わらず、泡が出なくなったらトスターや花台にも利用できる。

木のフルーツシリーズ
りんご丸 〇〇〇円 バナナ丸 五〇〇円
なし丸 〇〇〇円 トマト丸 〇〇〇円など

に有効に使ってしまうという、この徹底ぶり。

自然豊かな岩手ならではのアイデアである。

木けん 小四〇〇円 大五〇〇円

問い合わせ先/松川温泉(株)

〇一九五 七八 二三四五

盲学校の生徒たちのために、心の目で学ぶ自然の手触りを。

木のフルーツ

見た目というのは、実にあまいである。リンゴは赤、バナナは黄色と、色の印象でモノの形を知つたりもりになっている。

ところが、これが盲学校の生徒たちたちとつながる。彼らは、色も形も見ることができない。頼りにするのは、形をなぞる手触りだけ。

「本物はすぐ腐ってしまう。長く使える果物の木製品はできないものか。この木のフルーツは、そんな盲学校の先生の相談をきっかけに生まれた。製造元は、岩手県一戸町の工房アトクラフト。素材は、果産のケヤキやヒノキ。本物に忠実に、しなやかに、細部まで表現する。木目の美しさを生かし、フォルムなものに

触れてもらうために、あえて色はつけていない。見た目だけではなく、心の目で楽しむ。手触りで、自然と触れる。木と人の優しさがにじみ出るクマフットには、気持ちよさをやすらげる力があるようだ。

木のフルーツシリーズ
りんご丸 〇〇〇円 バナナ丸 五〇〇円
なし丸 〇〇〇円 トマト丸 〇〇〇円など



問い合わせ先/工房アトクラフト
〇一九五 三三 二七二七

眠れない症候群へ、快楽快眠のすすめ。

桐まくら

寝付きが悪い、眠った気がしないなど、不眠症に陥る現代人が多いという。ストレスや環境の変化など、さまざまな原因があるようだ。合わない枕を使っていることも、因なのだそうです。

そんな不眠症におすすみたいのが、この桐まくら。日本有数の桐産地、岩手県ならではの健康枕である。桐の木は、湿度調整に優れ、虫がつきにくく、軽いついた特性を持つ。これが枕にも最適で、睡眠中の汗を吸収し、乾燥すれば水分を蒸散。また、遠赤外線を放出して血行を促進するなど、体をリラックスさせ深い眠りに誘ってくれるという。

寝心地の点でも、円柱状に削られた桐が首

の形に最適な高さをキープ。寝相が悪いと崩れやすいのでは、と思われるだろうが、動くのは首が苦しいからに他ならない。柔らかな高さにしてあげば、自然な姿勢でぐっすり。不眠症を快楽快眠へと誘う、幸せの枕である。



桐まくら 一〇,〇〇〇円(種類・価格ともに豊富)

問い合わせ先/香り薬ケルブ

〇一九五 二二三 二〇二四

目指せイチロ、目指せ松井。
打率アップの体感素振りバット。

グアイスイング

日本のプロ野球界を代表する、イチロと松井。この二人に共通するのは、人並みはずれたグアイングの鋭さと、打球の速さだ。これは、飛距離の伸びと大いに関係があり、マスタでできれば確実に打率アップにつながる。その基本となる素振りを、充実感を高めながら



ら練習できるのが、新里村にある有限会社内田木工が開発した、体感素振りバット「グアイスイング」。

スプリングのシャフトに、木製のクリップとッドが固定されており、素振りの瞬間に、おもりがスライド。ひと振りすると、遠心力によって移動したおもりが、シャフトに当たり、カーンと快音をたてる。振りがシャープであればあるほど、快音が響き、ジャストミートの手応えが得られるのだ。

運動不足やストレス解消など、時間のない仕事人の手軽な健康法としても、おすすめ。

グアイスイング

グアイスイング練習用

二、〇〇〇円〜三、〇〇〇円

ミットポイント練習用

二、六〇〇円〜三、〇〇〇円

引き手・リスト強化用丸丸八〇〇円

問い合わせ先(有)内田販売システム

フリーダイヤル 〇二〇 五六 五五五七

商品協力

かわとく音響館

かわとく音響館

内田販売システム

あじ



ホヤ

喉こしに、ほのかな潮のにおい。三陸の夏の味覚といえば、ホヤ。濃紫色の固い殻のなかに、鮮やかなオレンジ色のやわらかな肉が詰まっている。おすめは、殻からさばいたまんまの、いわゆるホヤの刺身。ほのかな潮のにおいが喉こしもさわやかで、独特の風味を醸し出す。そのほか、もち料理の盛んな奥羽地方のホヤもちも美味。

いわてのレタス

シヤキ、パリッ。高冷地野菜のひとつレタス。雪解けの春を迎える4月ごろから種をまき、いまが収穫の最盛期である。新鮮なレタスは食感が魅力。シヤキシヤキバリバリとした歯ざわりと水々しい風味が、バリエーションの夏にも食欲を誘う。おいしく食べる時は味付けをシンプルに、塩か薄口オイルがベスト。



旬の情報報

早池峰神社例大祭



早池峰神社例大祭

7月31日宵宮、8月1日例大祭
大迫町 早池峰神社
宵宮に行われる岳と大儀、両神楽の競演が見もの。六〇〇年以上の歴史を誇り、国の重要無形民俗文化財に指定されている早池峰神楽が、約六時間にわたって堪能できる。
問い合わせ／大迫町企画財政課
〇一九八 四八 二二一一

けんか七夕

8月7日 陸前高田市、気仙町内
七夕を飾った山車同士を互いにぶつけ合う激しいまつり。織り姫・ひこ星のロマンチックな出会いより、海の男の荒々しさと短い夏にかける北国の情熱あふれる祭りだ。
問い合わせ／陸前高田市商工観光課
〇一九二 五四 二二一一

のだ砂まつり

7月26日〜27日 野田村、十府ヶ浦海岸
紫色の小豆砂が特徴の十府ヶ浦海岸で行われる夏の風物詩。砂のアートが立ちならび、テーマやデザインセンスを競い合う。昔ながらの塩づくりの実演も行われる。
問い合わせ／のだ砂まつり実行委員会
〇一九四 七八 二二一一

盛岡さんさ踊り

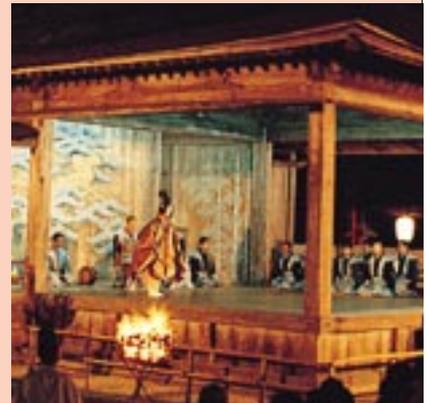
8月1日〜4日 盛岡市、中央通り
三ツ石神社の鬼伝説が発祥といわれるさんさ踊り。太鼓のリズムと笛の音が、盛岡のアツい夏を彩る。庄巻は五〇〇〇人の太鼓パレード。大きな身振りで観客を魅了する。
問い合わせ／盛岡さんさ踊り実行委員会
〇一九 六二四 五八八〇

盛岡さんさ踊り



中尊寺新能

8月14日 平泉町 中尊寺
中尊寺の野外能楽堂で行われる伝統行事。喜多流宗家の能楽師が、かがり火のなかで新能をおそそかに舞う。奥州藤原氏の魂がたまたよう古都の夜にふさわしく幻想的。
問い合わせ／平泉観光協会
〇一九一 四六 二二一一



中尊寺新能

宮沢賢治生誕祭

8月23日〜31日 花巻市、宮沢賢治童話村
作家であり科学者でもあった宮沢賢治の生誕を祝うイベント。地元花巻の郷土芸能をはじめ、コンサートや寸劇など、賢治にちなんださまざまな催しが繰り広げられる。
問い合わせ／花巻市観光課
〇一九八 二四 二二一一



賢治が農民芸術を実践した産地人協会

IWATE Public Relations **IPANGU**
No.1 1997.7[季刊]

発行 岩手県企画振興部広聴広報課
〒020 岩手県盛岡市内丸10-1
TEL.019-651-3111(代) FAX.019-651-8044
企画制作 株式会社盛岡博報堂
〒020 岩手県盛岡市菜園1-12-10
TEL.019-624-6360(代) FAX.019-624-6365

STAFF
Chief Editor 岩淵 公二
Art Director 村上 静志
Writer 内澤 稲子
佐藤利智子
成田 木実
Photographer 坂井 良隆
佐々木 浩
西巻順一郎
曲谷地 毅
松本 伸
渡辺 一也
Designer 下川 諭

詳しい岩手県の情報は、インターネットでどうぞ。

岩手県インターネット・ホームページ・アドレス
<http://www.office.pref.iwate.jp/>

IPANGUに関するご意見ご感想をお聞かせください。

メール・アドレス
gyousei@sv01.office.pref.iwate.jp



チャグチャグ馬コ

貸します。

祝いごとやイベントに、国の無形民俗文化財「チャグチャグ馬コ」はいかが。

出演料 一五〇,〇〇〇円

馬二頭、馬方四名、装束セットの料金。但し、交通・宿泊費、トラック駐車場などは別途。追加の場合、馬一頭、馬方二名ごとに、八〇,〇〇〇円

問い合わせ先 岩手チャグチャグ馬コ保存会 電話〇一九 六五九 〇八五七